

来たる年も力を尽くしたい

——会長退任のご挨拶

PMS総院長

村上 優

二〇二五年十一月十六日よりペシャワール会の会長は、村上から原祐一ゆういち医師に交代しました。すでに本年六月の理事会で決定しておりました。PMS総院長の職は村上が継続して務めてまいります。

ペシャワール会会長は発足後十年毎に交代し私は四代目でした。二〇一五年に就任してからの十年間は、中村医師から委託された「二〇年継続体制」の実現に努める日々でした。

二〇一九年十二月の悲劇を乗り越え、PMSが事業を継続できたのは、アフガニスタンでの活動を我がこととして励ましてくださる多くの支援者と事務局に集うボランティアスタッフの努力の賜物です。

中村医師の事業は幸いなことに順調に継続しています。藤田室長を筆頭にPMS支援室が軌道に乗り、中村医師が創り育てた用水路の技術もガイドラインなどにまとめられ、PMSの技術者と日本の技術支援チームとの協同作業も実現しました。現在は、中村医師が希望していた山麓中小河川の灌

漑事業に力を注いでいます。

農業では残っていた三〇ヘクタールのガンベリ農園の開墾が進み、穀物、野菜、果物が豊かに実り、中村医師がアフガニスタンでの栽培を期待したサツマイモも定着しつつあります。

また、二〇一〇年以降は戦禍の広がりのために運営が困難となったハンセン病医療も、「ドクター中村記念」を冠したセンターが十一月一日に開所しました。

末筆ながら、ご支援くださる皆様に心からの感謝を申し上げ、中村医師の絶筆となったメッセージに想いを託します。

「この仕事新たな世界に通ずることを祈り、真っ白に砕け散るクナル河の、はつらつたる清流を胸に、来たる年も力を尽くしたいと思います」(会報一四二号、二〇一九年十二月)